

やすらぎだより

7
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第157号

「150分のドラマ」

施設長 植田 誠



「只今より緊急停車致します。乗客の皆様方にはご迷惑をお掛けしますが、しばらくのあいだ車内でお待ち下さい」

6月18日の午前7時58分、乗客の携帯電話の緊急通報がけたたましく鳴り響くやいなや、JR大和路線の車内アナウンスとともに列車は停車した。車窓に広がる大和郡山のため池は、強風にあおられているかのようにそのとき波をうっていた。

ほとんどは通勤通学としての利用であろう先頭車両の約50人は、静寂の車中から非日常を予測したかの如く、ロクに言葉を発した。ある人はスマホの情報を独り言でつぶやき、ある人はマナーを顧みず電話の相手と大声で会話し、又、見知らぬ者同士は知り得た情報を交換し合った。

大阪北部を震源とする地震の規模が6弱であることは、隣に座る見ず知らずのサラリーマンの独り言で知った。東京行きのためキャリーバックを足元に置く私は、程なく届く幾つかのメールで緊急時の現実を改めて思い知ることとなる。

県内の多くの施設がそうであったように、私ども施設もエレベーターが停止したこと位で人的及び大規模な被災等は無かった。又、奈良県老人福祉施設協議会による災害初動時相互支援システムがいち早く動き、県内200施設の被災状況の集約が成され、第一報は地震発生後僅か25分での連絡であった。

相互支援という観点からも、県内にこだわることなく地震等の自然災害で被災された方々への支援のあり方を、速やかに再検討しなければならないであろう。

「只今、大和小泉駅からの応援駅員が到着しましたので、座席下にある簡易階段を使って乗客の皆様を順次車外にご誘導致します」

時刻は10時30分、150分にも及ぶ密室での人間ドラマは書き尽くせないが、‘大難を小難に、小難を無難に’の御恩に感謝しつつ‘成ってくのが天の理’と心落ち着かせたのであった。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業